

環境の状況に関するデータ

V 都市環境データ

1 人口

本市の人口は、明治22年の市制施行当時には約5万人でしたが、その後市域の拡大や都市化の進展に伴って自然的・社会的に増加し、令和2年4月1日現在推計人口は1,596,953人です。

区別では、東区が320,108人（構成比20.0%）と最も多く、次いで南区、博多区の順になっています。世帯数は、令和2年4月1日現在825,834世帯で、1世帯あたりの平均世帯人員は1.93人となっています。

最近5年間の人口増加は年間約1万2千人～1万5千人で、増加率は年0.8～1.0%程度です。

●行政区別人口（令和2年4月1日推計人口）

区分	福岡市	東区	博多区	中央区	南区	城南区	早良区	西区
世帯数	825,834	155,101	154,051	125,102	129,266	67,852	99,882	94,580
人口（人）	1,596,953	320,108	244,312	203,038	264,812	132,812	220,033	211,838
1世帯あたり人員（人）	1.93	2.06	1.59	1.62	2.05	1.96	2.20	2.24
面積（km ² ）	343.46	69.45	31.62	15.39	30.98	15.99	95.87	84.15
人口密度（1km ² あたり）	4,650	4,609	7,727	13,193	8,548	8,306	2,295	2,517

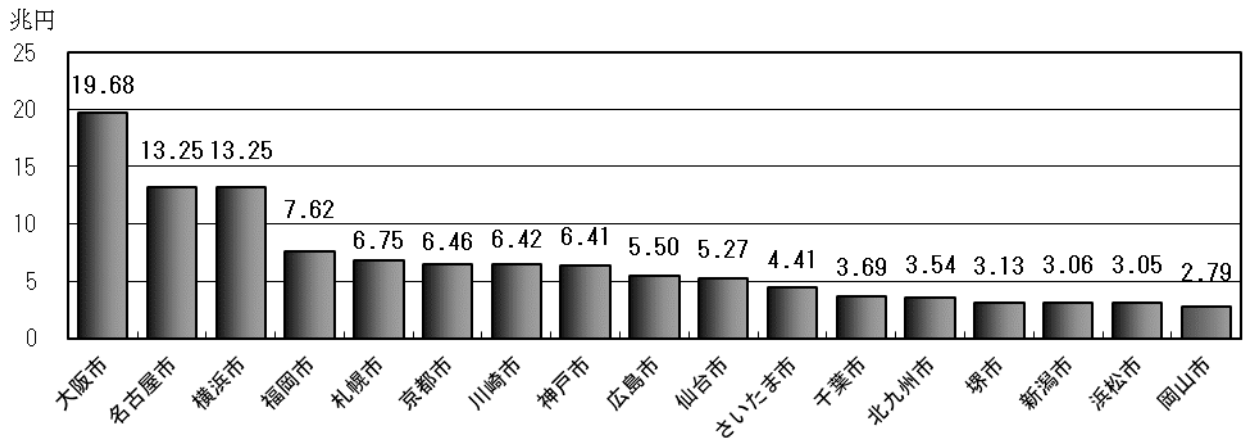
●市域と人口の推移

年	面積	世帯数	人口	人口密度	備考
明治22年	5.09 km ²	9,440 世帯	50,847 人	9,990 人/km ²	市制施行
大正9年	15.93	18,040	95,381	5,988	第1回国勢調査
14年	20.68	28,029	146,005	7,060	第2回 //
昭和10年	90.05	55,184	291,158	3,233	第4回 //
22年	128.82	73,823	328,548	2,550	第6回 //
30年	180.41	117,583	544,312	3,017	第8回 //
40年	241.54	205,673	749,808	3,104	第10回 //
50年	334.78	333,928	1,002,201	2,994	第12回 //
60年	336.82	433,348	1,160,440	3,445	第14回 //
平成7年	337.59	544,145	1,284,795	3,806	第16回 //
17年	340.60	649,138	1,401,279	4,114	第18回 //
19年	340.96	674,725	1,427,401	4,186	10月1日現在推計人口
20年	341.11	685,583	1,438,730	4,218	10月1日現在推計人口
21年	341.32	697,166	1,452,190	4,255	10月1日現在推計人口
22年	341.32	707,358	1,463,743	4,288	第19回国勢調査
23年	341.70	719,905	1,480,607	4,333	10月1日現在推計人口
24年	341.70	729,869	1,494,603	4,374	10月1日現在推計人口
25年	341.70	741,839	1,509,842	4,419	10月1日現在推計人口
26年	343.38	752,654	1,524,053	4,438	10月1日現在推計人口
27年	343.39	764,820	1,538,681	4,481	第20回国勢調査
28年	343.39	778,562	1,553,778	4,525	10月1日現在推計人口
29年	343.39	792,526	1,567,189	4,564	10月1日現在推計人口
30年	343.46	805,501	1,579,450	4,599	10月1日現在推計人口
令和元年	343.46	820,163	1,592,657	4,637	10月1日現在推計人口

2 経済

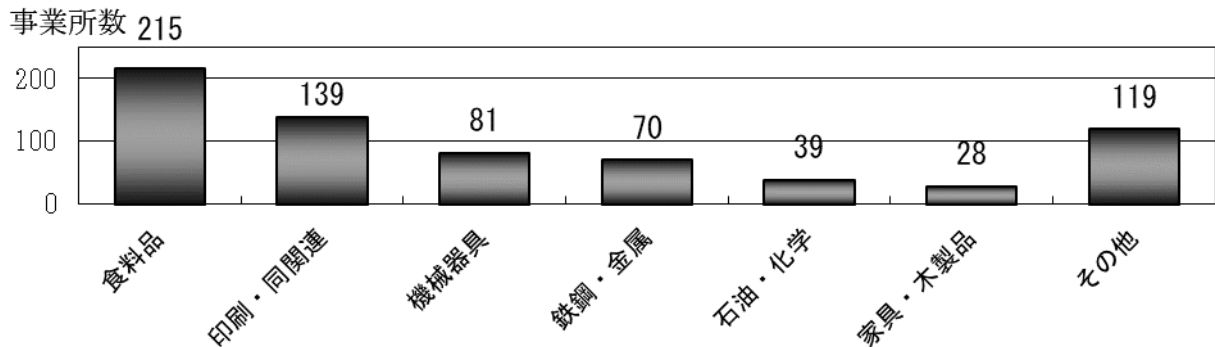
●市内総生産の他都市との比較（平成 29 年度）

平成 29 年度市内総生産（実質）は約 7 兆 6,245 億円で、対前年度増加率は 1.6% 増となっています。



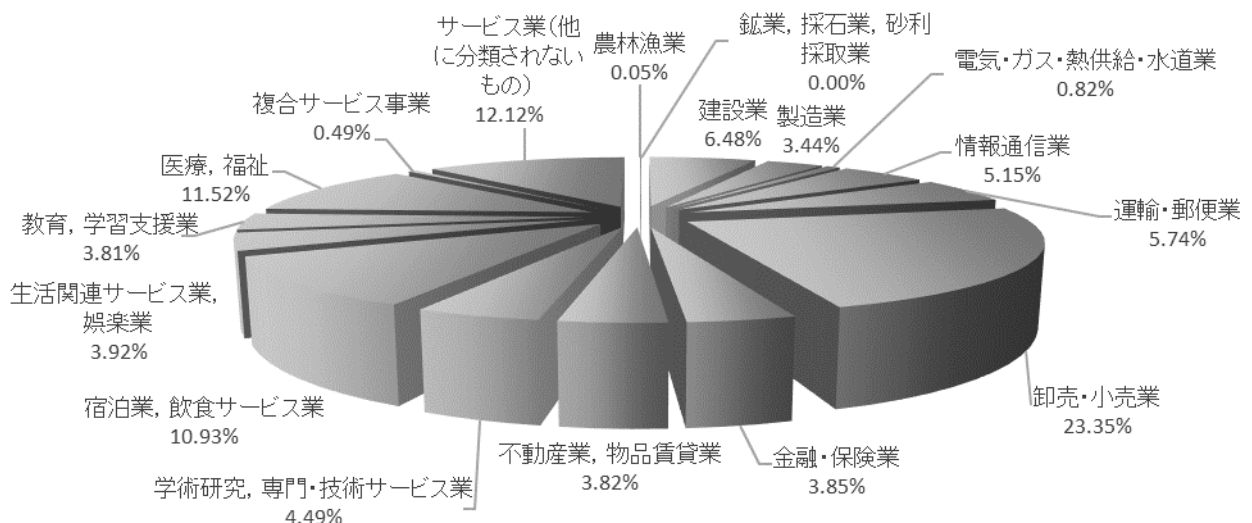
●製造業事業所数（従業者 4 人以上の事業所）（2019 年工業統計調査）

2019 年工業統計調査によると、環境保全との係わりの深い製造業については、従業者 4 人以上の事業所数で「食料品製造業」が最も多く、ついで「印刷・同関連製造業」、「機械器具製造業」の順になっており、この 3 業種で製造業の 6 割以上を占めています。



●産業別従業者数（平成 28 年経済センサスー活動調査）

従業者の構成による産業構造は、第 1 次産業が 0.05%、第 2 次産業が 9.93%、第 3 次産業が 90.02% となっており、第 3 次産業が大きな割合を占めています。



3 土地利用状況

本市の都市構造は、Y字型をなしており、天神・博多駅等の中心部に商業施設が集積しています。

本市の土地利用状況（平成 29 年調査）は、農地 7.7%、山林 33.1%、水面 2.8%、住宅 21.1%、工業 2.2%、公共施設 5.7%、公園・緑地 4.5%、道路 10.7%、交通施設 2.3%、空地 3.8%、その他 1.2%となっています。

●土地利用の状況

（単位：％）

農地	山林	水面	住宅	商業	工業
7.7	33.1	2.8	21.1	4.9	2.2
公共施設	公園・緑地	道路	交通施設	空地	その他
5.7	4.5	10.7	2.3	3.8	1.2

※農地：水田、畑、樹園地、採草地、養鶏（牛豚）場、ビニールハウス等

山林：樹林地

水面：河川水面、湖沼、ため池、用水路、濠、運河水面等

住宅：住宅、共同住宅、店舗等併用住宅、店舗等併用共同住宅、作業所併用住宅等

商業：小売業、百貨店、ガソリンスタンド、食堂、理容店、飲み屋、劇場、ボーリング店、パチンコ屋等

工業：工場、運輸倉庫施設、危険物貯蔵・処理施設、荷とき場等

公共施設：官公庁施設、文教厚生施設、処理場、火葬場、発電所、変電所等

公園・緑地：公園・緑地、広場、運動場、墓園

道路：道路、駅前広場

交通施設：自動車ターミナル、立体駐車場、駅舎、鉄道用地、空港、港湾

空地：建物跡地など都市的状況の未利用地、平面駐車場

その他：原野・牧野、荒れ地、低湿地、河川敷・河原、海浜、湖岸、資材置き場、住宅展示場、ゴルフ場、農業用納屋、船小屋、農林漁業用作業場等

一方、都市計画に基づく地域指定の状況は令和 2 年 3 月現在、都市計画区域 34,082ha、うち市街化区域が 16,362ha（48.0%）、市街化調整区域が 17,720ha（52.0%）となっています。

市街化区域における用途地域の指定状況は、令和 2 年 3 月現在、住居系地域 11,927ha、商業系地域 1,817ha、工業系地域 2,618ha となっています。

●都市計画区域（令和 2 年 3 月現在）

都市計画区域	34,082 ha
市街化区域	16,362 ha
市街化調整区域	17,720 ha

●用途地域の状況（令和 2 年 3 月現在）

用途地域	面積(ha)	構成比(%)
第一種低層住居専用地域	4,088	25.0
第二種低層住居専用地域	10	0.1
第一種中高層住居専用地域	2,410	14.7
第二種中高層住居専用地域	345	2.1
第一種住居地域	3,386	20.7
第二種住居地域	1,522	9.3
準住居地域	166	1.0
近隣商業地域	333	2.0
商業地域	1,484	9.1
準工業地域	2,001	12.2
工業地域	574	3.5
工業専用地域	43	0.3
計（市街化区域）	16,362	100.0

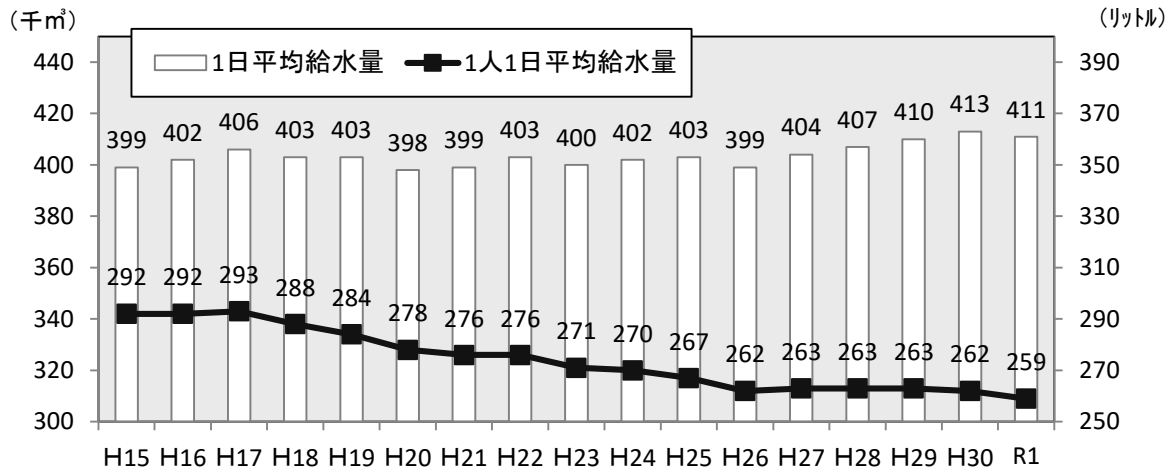
4 上下水道

(1) 上水道

福岡市は、市域内に一級河川を有しておらず、水資源に恵まれていません。そのため、19回にも及ぶ水源開発を重ね、近郊での水資源開発はもとより、筑後川からの導水などにより水源の確保に努めてきました。また、昭和53年と平成6年の2度の異常渇水の経験を契機として、市民と行政が一体となった「節水型都市づくり」を進めています。

令和元年度の平均給水量は、1日あたり411千 m^3 、1人1日あたり259リットルとなっており、全国的に見ても節水が進んだ都市です。

●上水道の1日平均給水量及び1人1日平均給水量



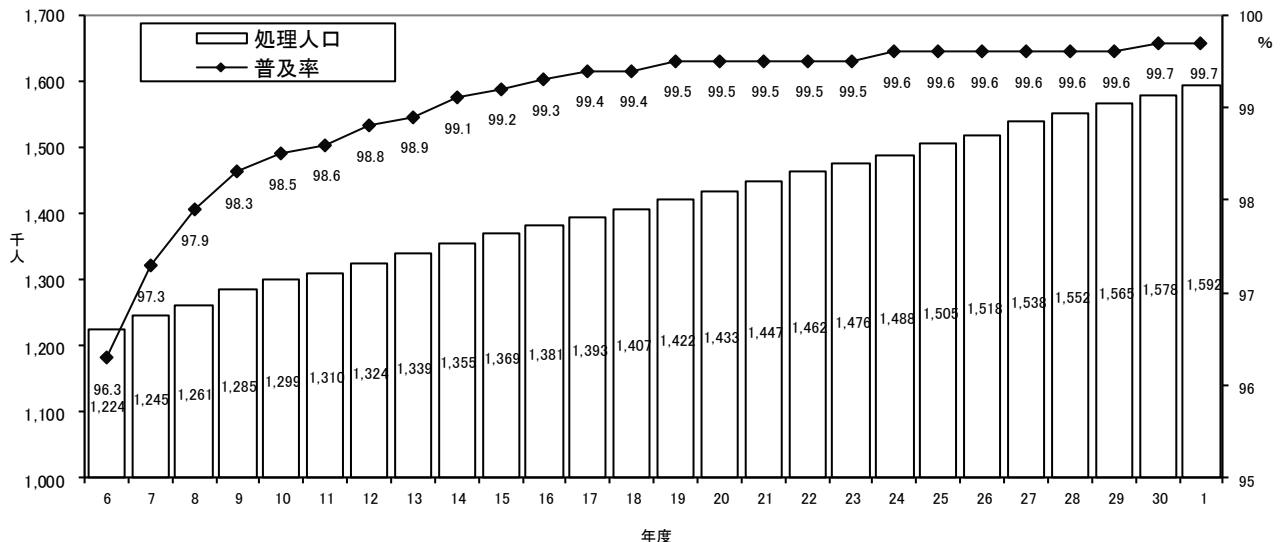
(2) 下水道

下水道は、市街地の浸水防除やトイレの水洗化など、安全で快適な生活環境をつくり、海や川などの公共用水域の水質汚濁を防止する上で欠くことのできない重要な施設です。このため、福岡市では下水道の整備を積極的に進めています。

平成29年度から4年間を計画期間とする下水道整備計画2020では、改築更新、浸水対策、地震対策、未整備区域の解消、合流式下水道の改善、再生水利用下水道を重点項目として事業を推進しています。

人口普及率は令和元年度末で、99.7%となっており、引き続き土地利用や地形等の問題により下水道の整備が困難となっている地区の解消に取り組んでいきます。

●下水道処理人口及び普及率



5 交通

(1) 陸上交通

交通混雑対策については、地下鉄整備などによる鉄道ネットワークの強化と駅前広場などの交通結節機能の強化による公共交通ネットワークの拡充を図るとともに、福岡外環状道路や福岡都市高速5号線をはじめとする放射環状型幹線道路ネットワークの整備による自動車交通の分散化や、公共交通の利用を促進する交通マネジメントの推進などに取り組んでいます。

●自動車登録台数の推移

(単位：台)

区分	昭和40年度	50年度	60年度	平成7年度	17年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
乗用自動車	30,165	128,089	233,049	389,356	437,854	431,588	434,455	440,779	445,394	447,749
貨物自動車	39,825	70,015	81,679	87,636	71,033	57,423	57,109	57,168	57,422	57,781
乗合自動車	3,092	3,480	2,471	2,479	2,481	2,460	2,522	2,563	2,583	2,592
特殊・大型特殊	1,564	5,161	6,544	10,322	12,962	11,962	12,203	12,380	12,544	12,625
軽自動車	21,869	43,511	71,629	108,273	136,340	192,391	197,713	200,495	202,723	206,343
計	96,515	250,256	395,372	598,066	660,670	695,824	704,002	713,385	720,666	727,090
対昭和40年度比	1	2.6	4.1	6.2	6.8	7.2	7.3	7.4	7.5	7.5

資料：福岡市統計書

都市高速道路は、都市内交通の円滑化、都市機能の維持・向上、地域間の交流促進・連携強化などを図るため、放射環状型の自動車専用道路網の形成を目指しており、整備を進めてきた福岡高速5号線が平成24年7月に全線開通しました。

福岡外環状道路は、博多区西月隈から西区福重に至る計画延長16.2km、基本幅員40mの福岡都市圏の骨格を形成する重要な幹線道路であり、西南部の基幹道路として、各地域を結び交通混雑の緩和を図るものです。昭和63年度から本格的に事業に着手し、平成23年4月に全線4車線で開通しました。

JR、西鉄及び地下鉄によって構成される本市の鉄道網は、都市間及び都市内の大量輸送機関として大きな役割を果たしています。地下鉄は、空港線（姪浜～福岡空港間13.1km）、箱崎線（中洲川端～貝塚間4.7km）に加え、七隈線（橋本～天神南12.0km）が平成17年2月3日開業しました。これらの路線は、JR新幹線・鹿児島本線・筑肥線、西鉄天神大牟田線・貝塚線と相互に結ばれています。

地下鉄の令和元年度における輸送人員は約1億7,329万人になっています。

●地下鉄輸送人員推移

(単位：千人)

年度	平成21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
地下鉄	123,865	127,136	133,434	137,246	143,152	148,203	156,081	160,390	165,786	171,551	173,294

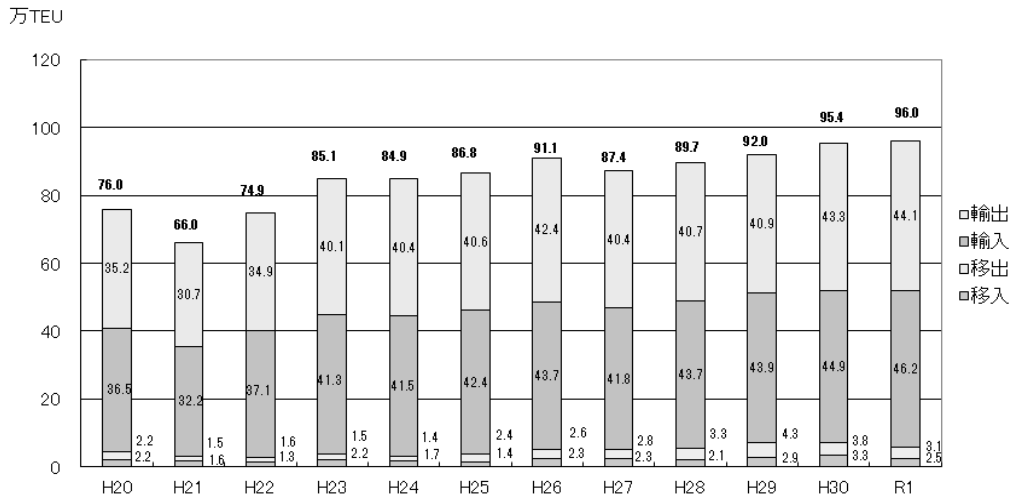
地下鉄路線図



(2) 博多港

博多港は、福岡都市圏の生活必需品を取り扱う生活港湾として、また九州の貿易や、経済活動を支える国際貿易港として発展しています。平成2年には国の特定重要港湾（平成23年度より国際拠点港湾）に指定されており、令和元年の国際海上コンテナ取扱個数は約96万TEU（確定値）となっています。

●博多港における国際海上コンテナ取扱個数の推移

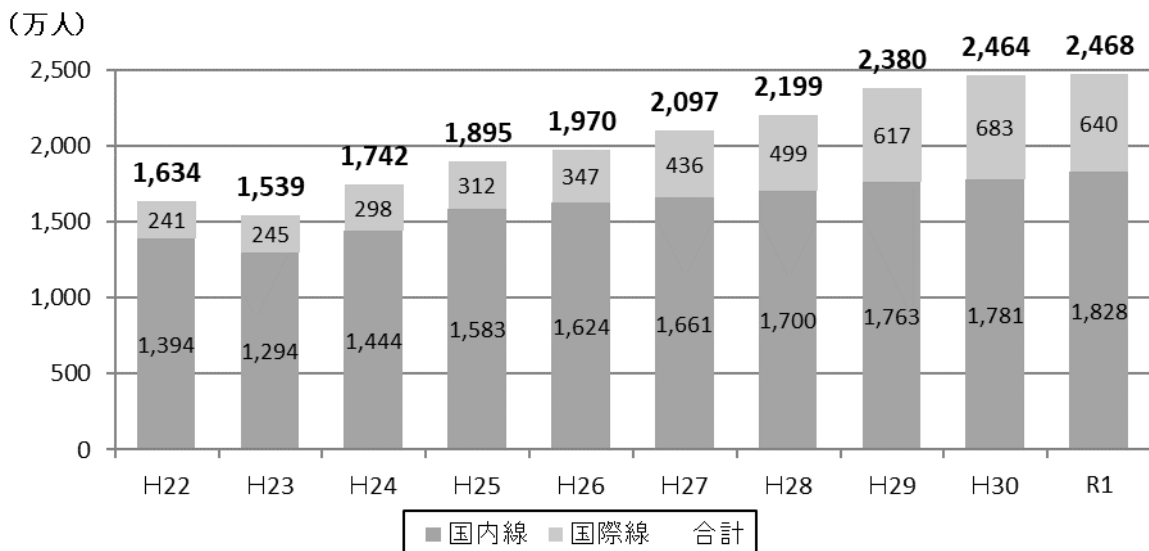


また、博多港は志賀島、玄界島などを結ぶ市営渡船や、壱岐・対馬、五島などとの間の国内フェリーが発着する国内海上交通の要所となっています。国際旅客航路としても、韓国・釜山港との間のフェリー及びジェットフォイルやクルーズ船など、様々な船が行き来しており、日本を代表する海の玄関口となっています。

(3) 福岡空港

福岡空港は、九州・西日本地域の経済発展や交流を支える拠点空港として、またアジアへのゲートウェイとして重要な役割を果たしており、令和元年の乗降客数は、約2,468万人（前年比100.2%）、うち国際線は約640万人となっています。また、貨物については、25万トンを超える取扱量となっています。

●福岡空港の乗降客数の推移



出典：国土交通省空港管理状況調査

6 歴史・文化

福岡市は、2,000年以上の長い歴史を有し、遺跡や神社・仏閣等を始め、数多くの文化財が存在しています。

●福岡市の主な文化財等

<p>東 区</p> <p>金印公園 志賀海神社 宮前古墳 立花城跡 香椎宮 舞松原古墳 名島城跡（名島神社） 名島櫓石 米一丸石造九重塔 菅崎宮 蒙古礎石 枯野塚 奈多の志式座</p>	<p>（博多区続き）</p> <p>東光院 東林寺 住吉神社 日吉神社 康永三年銘梵字板碑（濡衣塚） 地藏菩薩像板碑 櫛田の銀杏 福岡藩主黒田家墓所</p>	<p>早良区</p> <p>有田遺跡 妙福寺庭園 主基斎田跡 西光寺梵鐘 曲淵五重石塔 曲淵ダム 荒平城跡 勸農社跡</p>
<p>博多区</p> <p>東公園 比恵遺跡 剣塚古墳 那珂八幡古墳 那珂遺跡 板付遺跡 金隈遺跡 今里不動古墳 崇福寺 妙典寺 万四郎神社 善導寺 綱敷天満宮 聖福寺 妙楽寺 東長寺 龍宮寺（人魚塚） 櫛田神社 萬行寺（明月尼の墓） 承天寺 若八幡宮の力石 （次列へ続く）</p>	<p>中央区</p> <p>鴻臚館跡 旧福岡県公会堂貴賓館 警固神社 平尾山荘 福岡城跡 西公園 大濠公園 福岡市赤煉瓦文化館 ツクシオオガヤツリ 浄満寺 金龍寺</p>	<p>西区</p> <p>興徳寺 草場古墳群 野方遺跡 吉武高木遺跡 飯盛神社 金武のヤマモモ 今宿古墳群 今山遺跡 元岡瓜尾貝塚 元寇防塁 夫婦塚2号墳 能古焼古窯跡 吉武熊山古墳 長垂の含紅雲母^{ハクマイト}岩脈 浦江1号墳 白鬚神社 勝福寺 誓願寺 橋本八幡宮のイヌマキ群落 女原瓦窯跡</p>
	<p>南区</p> <p>三宅廃寺跡 寺塚穴観音古墳 大平寺跡 野多目遺跡 老司古墳 老司瓦窯跡</p>	
	<p>城南区</p> <p>友泉亭公園 菊池神社 梅林古墳 油山観音</p>	

福岡市には、長い歴史の中で育まれてきた個性豊かな伝統文化が市民生活の中に脈々と息づいています。博多どんたくや博多祇園山笠等の伝統的な祭りが代々引き継がれ博多の文化を形成しています。